

北海道支部長挨拶

令和元年7月22日

創立60周年から70周年へ



第60期北海道支部 支部長
花島直彦〔室蘭工業大学〕

日本機械学会北海道支部 第60期支部長を仰せつかりました、室蘭工業大学の花島と申します。支部長就任にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

元号が、平成から令和に変わりました。新しい時代の幕開けです。200年ぶりの譲位が行われ、令和は祝賀ムードで迎えられました。

北海道支部が誕生した昭和30年代から40年代にかけて、日本は人口が増え、産業も発達し、経済発展も著しく、東京オリンピックや大阪万博の開催、東京タワーや新幹線の開業など、成長を感じさせる時代でした。

転じて現代は、戦後最長の景気拡大、2020年の東京オリンピック、2025年の大阪万博、東京スカイツリーの開業など、ニュースを比較すると、あの時代と同じく華やかな印象はありますが、成長をあまり実感できないという声が多いようです。2つの時代を比較して最も状況が異なるのは人口ではないでしょうか。

平成の後期から日本の人口は減少に転じ、社会全体で大きなパラダイムシフトが起きています。少ない人口で社会を維持し発展させるために政府をはじめ、地方自治体、産業界、経済界が知恵を絞って対応しています。では、学会はこのような社会に対してどのような貢献が可能でしょうか。その答えを探るため、SDGsをテーマにして創立60周年記念講演会を企画いたしました。

SDGsはご存知のとおり、2015年に国連サミットで採択された開発目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、発展途上国のみならず、先進国

自身が取り組む普遍的な目標も含まれています。ご講演では、持続可能な目標に取り組む方法として示唆的な点が2つありました。

一つは、現在からどんな改善ができるかではなく、未来の姿から逆算して現在の施策を考えるバックキャストという方法です。もう一つは、多様な組織の共創によりイノベーションが創出される環境である、エコシステムを構築することです。

学会の目標は、多くの方が集い、交流し、その中で新たなものを生み出すことにあると思います。しかしながら、北海道支部のエリアは広く、支部会員が一堂に会する機会をなかなか持てないのが実情です。そこで、これまで時期が離れていた支部講演会と学生会卒研発表会を同時に開催することが、前年度の支部幹事会にて提案され、商議員会、総会で認められました。

私は、この合同講演会をエコシステムとして発展させることで、10年後の70周年には大学関係者だけでなく、道内の機械技術者らも広く参加できるものになればよいと考えています。そのために、合同講演会の中に企業展示ブースを設けて学生らにも北海道の企業について知ってもらうことや、支部の活動を紹介するために学生会やシニア会、懇話会などのブースも設けることも考えているところです。このような活動により人口減少下においても、将来に渡って活力のある支部活動が展開できるものと期待しています。

支部会員の皆様におかれましては、支部の企画運営につきまして、ご支援、ご協力を賜りますとともに、忌憚のないご意見やご要望をお寄せいただき、それらを糧として北海道支部のさらなる発展に貢献する所存でございます。